

# 必然のレイアウトが生む、ゆとりある空間。

## デザイナーに訊く ① 後久隆一郎 (G2 DESIGN STUDIO)

PHOTOGRAPHS ON P26 BY MASAYA TAKAGI TEXT BY TOSHIYA MURAOKA

アークヒルズ 仙石山レジデンスは、「シンプルで緻密なディテールの積み重ねで出来ている」と、デザインを担当した後久隆一郎さん。その言葉を裏付けるように、ゆったりとした玄関からパーティーができるほどのダイニング、そして空を広く感じるリビングへと続く動線に、過度な装飾は一切ない。上質な空間であることを担保する上でもっとも重要なのは、レイアウトなのだと言います。

「アークヒルズ 仙石山レジデンスは、3階から24階という比較的低いゾーンにあるため、周囲に建ち並ぶビルによって視線が抜ける方角もあれば、隣のビルが視界に入ってしまうこともある。ですから、とにかくビューを意識して各ユニット、各部屋をデザインしています。ベッドルームのベッドの位置まで考えて、横になったときに視線が空へと抜けているかどうかを考慮してレイアウトを決定しました。つまり、レイアウトを決めたのは我々ではなく、ビューなんです(笑)」

そうした必然の連続によってデザインが決まってくると、レジデンスは安心感のある落ち着いた空間になる。リビングに大きく取った窓の床からの立ち上がりの高さは、高層の恐さを感じないように綿密に検証されている。あるいは、23階、24階のプレミアム住戸のリビングでは、広い空間に対して3mの天井高を取りゆとりを生み出した。後久さんは、設計段階から作業に携わり、配管やダクトの取り回しを効率的に行うことで天井高を確保した。

「リビングにある丸柱もそうですね。通常ならば仕上げで厚みが増してしまうところですが、今回は極力細く仕上げて存在感を消しています。恐らく、玄関から入って来て部屋の中を見回しても、どこにも特出したデザインはない。しかし、実

はディテールは非常に計算している。私が住宅において目指しているのは普遍性のある飽きのこないデザインですから、感動するのはビューだけでいいんです」

例えば、ダイニングを仕切る際のスライディングドアには、アルミ枠の磨りガラスを採用し、日本家屋の襖のようなコンセプトで、仕切られているにもかかわらず軽く感じられる。あるいは壁の仕上げは、リビングやダイニングなどパブリックエリアは白い壁、ベッドルームなどのプライベートエリアは落ち着いた緑色の麻の壁紙にすることで、空間の印象を変えた。さらに洗練さを出すために、自然素材の麻の壁紙に縦のストライプのラインを入れたものを特注したことで、プライベートエリアに森ビルらしい独特のモダンな落ち着きを生んでいる。

「“アートの映える空間”がレジデンス全体のコンセプトになっています。ですからレジデンスのエントランスもギャラリーのよう。それぞれのユニットには、アートが置かれることを想定して光の向きをアジャストできる照明を設置しています。逆に言えば、無駄なものはない。マスターベッドルームのベッドサイドには、スタンドライトが来るのが分かっているので、天井照明は設置せず、カーテン伝いに光が溢れるように間接照明を仕込みました。ギャラリーのようなゆとりある余白のある空間にどのように住まうか。細部まで考え尽くしたシンプルさを自由に使って頂きたいですね」

上質さを演出するために必要なのは、装飾ではなく、本質を捉えたデザイン。素材そのものであり、光であり、レイアウトが、居心地の良さを生む。削ぎ落とすことによっても生み出されないシンプルさがその無上の贅沢なのだ。



エントランスホールからダイニング、リビングルームへと流れるような動線のレイアウトで、最大限のオープンスペースを提供している。リビングルームの天井のベース照明は、僅かな窪みの中に収められ、離れてみると照明は見えないのに光がある仕掛けになっている。



ワインセラー



バスルーム



ウォークインクローゼット

後久隆一郎/1992年に(G2デザインスタジオ)を設立。商業店舗では、国内外のファッションブランドの店舗に携わる。また、住宅デザイン分野でも多くの物件を手掛け、六本木ヒルズのレジデンスも担当。シンプルかつ合理性のあるデザインで人気を博す。東京、関東近郊において注文戸建住宅も多数手掛けている。

## アークヒルズ 仙石山レジデンス



開放感溢れる吹き抜けエントランスロビー



広々として使い勝手のよい車寄せスペース



こげらの庭をはじめ敷地内には緑が溢れる

桜と緑に彩られた、国際性豊かなエリアに建つ「アークヒルズ 仙石山森タワー」。その3~24階を占めるレジデンスでは、各施設と連携した様々なサービス、エンターテインメントや文化の傍らで暮らす豊かなライフスタイルを満喫いただけます。

お問い合わせ:  
TEL 0120-52-4032(森ビル株式会社 住宅事業部)

[www.moriliving.com](http://www.moriliving.com)